

2016年12月の中央教育審議会答申では、言語能力と同様に情報活用能力を「教科等を越えた全ての学習の基盤として生まれ活用される資質・能力」と位置づけたことから、学校教育における情報教育の重要性が一段と高まっている。さらに、小学校段階からプログラミング教育を行う観点から、「時代を超えて普遍的に求められる力としてのプログラミング的思考」を育成することが求められている。そのことによって、情報学的なものの見方・考え方として、情報技術を手段として論理的に思考し、課題を解決して新たな価値を創造する力が備わることが期待される。そこで、この事例紹介・討論では、全ての学習の基盤とされる情報教育で養成する資質・能力とは何か、とりわけ、他の教科教育では学ぶことが難しい情報学固有のものの見方・考え方や、プログラミング的思考をどのような方法で育成するかについて、北部九州・山口県での先進的な実践事例を紹介していただきながら、会場の皆様とパネル形式で議論を深めていきたい。

オーガナイザ： 西野 和典（九州工業大学）

事例紹介：

1. 中荃 隆（九州工業大学）

ソフトバンクグループ（株）が実施する Pepper 社会貢献プログラム「スクールチャレンジ」で、福岡県飯塚市の教育委員会、同市の小・中学校、九州工業大学が連携して実施している Pepper を使ったプログラミング教育の取り組みをご紹介します。

2. 北野 和義（岩国市立灘中学校）

中学校の技術・家庭科の技術分野「情報に関する技術」の「プログラムによる計測・制御」の内容について、IoTをふまえて開発した題材や、それを用いた授業の実践をご紹介します。

3. 大塚 健一郎（佐賀県立致遠館高等学校）

今年度から情報科教育で推進するプログラミング教育のねらいと実施計画、同高校で推進するSSHとの関係、さらに、佐賀県立の全高等学校で推進している高校生1人1台のPC（BYOD）を用いた授業の状況や学習効果等についてをご紹介します。